

**一般社団法人 埼玉県リハビリテーション専門職協会**  
**令和7年度 第5回理事会 議事録**

日 時:令和7年11月10日(月)19:00~20:23

場 所:オンライン(Zoom)

参加者:15名(理事12名、監事3名)

理事) 岡持、伊藤、唐澤、菊地、 穎川、駒井、平田、大橋、鶴ヶ崎、高木、中辻、大住

監事) 水田、宇田、田尻

欠席者:なし

司 会:岡持

書 記:大住

**<審議>**

**第1号議案 令和7年度第4回理事会議事録(案)について【大住】**

- ・ 第4回理事会の議事録の内容を確認いたします。

**<協議内容>**

- ・ 議事の内容を説明させていただいた(大住)

**<決定事項>**

- ・ **満場一致で承認となる。**

**<報告・連絡>**

1. 今年度の下半期の事業計画についての報告と相談【駒井さんより】

**<相談1>**

リハ職育成事業中級コースが2つ開催予定しているが、案を提示いたします

- A) 移送・移動の課題の実践例 講師:伊藤みどりさん(全国移動サービスネットワーク事務局長・社会福祉士)
- B) 地域包括ケアシステムの構築評価  
~長崎県の自己評価チェックシートを中心に「構築」から「充実」へ~  
講師:井口茂さん+県の担当者  
広島県と長崎県で自己評価を行っており、広島県の評価を取り入れた長崎県をモデルにお話しをしてもらおうとよいのではないかと。
- C) 聞こえと食べるをかなえる新たな取り組みの創造 講師未定  
ヒアリングフレイルの対応は急務。

また、食べることの支援として、歯科衛生士さんと栄養士さんが訪問を行っている事例を提示してはどうかと考えている。

- ・ 昨今、聞こえや食べることの支援をニーズが高まっている。  
県内外で、先駆的に取り組まれている事例を提案していただくと、各地域で取り組めるのではないか。(高木)  
→ 大阪府の豊中市では、STが市内全域で取り組まれている(岡持)
- ・ STにアピールしていくことは必要と考える(田尻)  
→ 各施設で、聞こえや嚥下に取り組みを広げて行くために、具体例をビジュアルでみてもらう(岡持)
- ・ A)とB)の案ではどうか？  
→ 穎川さん・唐澤さんからは、地域包括ケアシステムの構築評価に関心がある

#### 次回の審議事項に提出できるように準備を進める

- ・ B)構築評価と、C)聞こえと食べる支援の企画を進めていきたい

#### <相談2>

- ・ 今年度新たに、地域包括ケアシステム情報交換会を企画している。地域包括支援センターの職員向けに情報提供を考えている。
  - (ア) 保健事業と介護要望の一体的実施を中心とした内容  
→ 他もよいが、一体的実施もよいのではないか(大橋)
  - (イ) 聞こえと食べるとかなえる新たな取り組み内容  
→ 見せられる事例が県内にあるので、リハ向けには事業化、包括や行政職員には知ってもらう双方の研修が組めるのではないか(中辻)  
→ 現場で困っている話を多く聞く(駒井)
  - (ウ) 専門職との協業をお金の側面から考える内容:リハ同行訪問のマネタイズ・事業化(包括配置の種まき)  
→ リハの介入が、経済学的な効果・貢献の知識は必要ではないか。  
市町村に持っていく前に、リハ職の認識を深める方がよいのではないか。  
育成と同時進行(伊藤)  
→ マネタイズが気になる。  
地域支援事業のみを仕事をしようとする人もでてくるのではないか。(菊地)  
→ OT協会は、全国の市町村役場にOTを配置しようとする構想があるので、この企画はよいのではないか(鶴ヶ崎)  
→ 内向きも外向きも必要だと考える。

ディスカッションした意見も気になる(水田)

次回の審議事項に提出できるように準備を進める

- ・ ア)イ)ウ)の3案を県の方の意見も聞きながら、企画していく
  
- ・ その他、介護予防研修の延長線上で行う研修  
ブラッシュアップ研修 11/11  
スタートアップ研修 11/14
  
- ・ ステップアップアドバイザー研修  
リハケアサポートセンターや、協力医療機関とのネットワークづくりを深めていくとともに、次年度の準備
  - ケア会議助言者のネットワーク
  - 短期集中予防サービスのネットワーク
  - ケア人材育成指導者(サポセン連絡会議)  
→ 3会長からも賛同の意見あり

県に上記の3企画を提案する。

- ・ 地域保健総合事業についての事業化の可能性(岡持)  
10/18の保健分野でのOT・PTの取り組みについて情報を共有(資料参照)  
OT士会からも参加者を派遣したが、PT士会での準備段階をお聞きしたい。(大橋)
  - 日本PT協会は、各都道府県の伴奏支援を行っている。渉外部等が事業化している動きがある。両協会(PT・OT)ともに、今後も継続することになっており、次年度は母子保健を推進する予定。埼玉PT士会は、穎川さんやサポセンが県保連と一緒に取り組みを進めている(岡持)
  - OT士会は、職業開発部門の委員を研修会に派遣し、  
PTは腰痛予防・OTはメンタルヘルス分野という認識。働き世代を対象。  
3士会で実施していくのか?(大橋)
  - 三士会で進めていくのがよいのではないか(水田)
  - ねりんぴっくもPTOTだったが、水田さんからのアプローチでST士会も一緒に取り組めるようになった。埼玉県は3団体が一緒に動きたい。(宇田)
  - 市町村で母子保健に関わっているが、母子保健のイメージが湧く。  
働き世代に対しては、聞こえやコミュニケーション支援が可能ではないか(田尻)

- 埼玉県では、公衆衛生や労働産業に貢献できるリハの人材育成を行っていくこともあるのではないかな。
- 公衆衛生協会から事業費をもらって実施してきた「産業保健」は、3年で最後の年。次年度は、PTOT協会は母子保健の事業提案を検討中。
- 埼玉県内で産業保健を事業化したいということであれば、モデル事業報告を参考に取り組めるのではないかな。
- 例えば、リハ専門職協会でも事業化を検討してもよいのではないかな(岡持)
- 母子保健に取り組みたいということであれば、事業の手上げをすればよいのか?(大橋)
- その認識でよい(岡持)

今後、検討を続けていく。

## 2. 各士会より

- ◇ PT:
- ◇ OT: 学童保育からOTを常勤で雇用したい報告を受けた。  
子どもへの支援にOTが関われ、学童に関わる方々と関係づくりが必要。
- ◇ ST: デフリンピックの選手の聴力検査にSTが協力をしている。


## <次回予定>


- ・ 2026年1月19日(月) 19:00-20:00 オンライン 第6回理事会

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び出席理事がこれに記名押印する。

## 議事録署名

代表理事 岡持利巨 

監事 水田宗達 

監事 宇田英幸 

監事 田尻恵美子 